

令和5年度第3回東久留米市子ども・子育て会議  
会議録（全文筆記）

開催日時

令和6年2月2日（金） 午後7時00分～午後7時40分

開催場所

東久留米市役所701会議室

出席者の氏名

- (1) 委員 齋藤利之委員 佐々木香委員 小野寺桃子委員 蒔田春香委員 沢西欣哉委員  
橋本脩委員 田中明美委員 森山健史委員 鹿島洋子委員  
大山裕美委員
- (2) 事務局 子ども家庭部長、子育て支援課長、児童青少年課長、子ども家庭部主幹、  
児童青少年係長、子ども家庭支援センター主査、保育・幼稚園係長、  
子ども政策担当主査、子育て支援課係員1名
- (3) オブザーバー（コンサルティング） 株式会社創建

欠席者の氏名

池邊照彦委員  
波田桃子委員

会議の議題

- 1 開会
- 2 東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書について
- 3 その他
- 4 閉会

1 開会

・会長

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻少し前でございますが、出席される委員の方々、これで全員そろっておりますので、始めさせていただければと思います。本日は〇〇委員から欠席する旨、それから〇〇委員と〇〇委員より、遅れるというご報告をいただいておりますので、よろしく願いいたします。

なお、委員の半数以上の方が出席されておりますので、本会議は成立してございます。それでは事務局より、本会議での議題内容等について、ご説明をお願いいたします。

・事務局

それでは私の方から、本会議での議題内容等に関しまして、ご説明をさせていただきます。なお、本会議は議事録作成のため、会議の内容を録音させていただいておりますので、ご承知おきください。本日の議題の内容等について、ご説明させていただきます。お手元に配布させていただきました次第の通り、2. 東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書について、3. その他でございます。以上でございます。

・会長

ありがとうございます。本会議終了予定時刻は、午後9時となっておりますが、議題は今申し上げた通り、東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書についてと、その他の2点でございます。もとより慎重審査を妨げるものではございませんが、十分な審議を行った上で、予定時刻よりも早く会議が終わることになろうかと思いますが、よろしく願いいたします。今日の議題については、そういう形でございますので、皆さんに置かれましては円滑な議事進行を、よろしく願い申し上げます。それでは、会議に入りたいと思います。事務局に確認しますが、本日傍聴の方はいらっしゃいますでしょうか。

・事務局

いらっしゃいます。

・会長

どうぞお入りください。

傍聴の方が着席されましたので、事務局の方から配付資料の確認等をお願いいたします。なお傍聴の方におかれましては、東久留米市子ども・子育て会議条例運用基準に定められております、傍聴人の遵守事項を留意していただき、議事に批評を加える、または拍手・その他の方法により可否を表さない、騒ぎ立てるなど、議事を妨害しないこと等の事項を、お守りいただけるよう、よろしく願い申し上げます。

・事務局

では、配付資料について確認させていただきます。今回は、事前に配付させていただきました資料が、2点となります。まず資料1「東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査」報告書（案）でございます。次に資料2「ニーズ調査」平成30年度調査との比較、でございます。事前配付資料については、以上となります。また、本日新たに配布する資料はございません。資料の確認は以上となります。

・会長

資料の過不足はございますでしょうか。なければ手を挙げていただければと思います。大丈夫ですか。ありがとうございます。それでは次に、次第2 東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書についてです。事務局より、お願いいたします。

・事務局

委員の皆様へ参考資料として送付いたしました、東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査の速報に続き、東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書（案）を作成いたしました。お配りいたしました、資料1、資料2をお手元にご用意ください。今回のニーズ調査の狙いといたしましては、今後の子ども・子育て支援事業計画の各サービスの量の見込みを設定するため、利用希望の割合などを把握するため、となっております。実際に、量の見込みを設定する際には、大まかに説明いたしますと、子どもの数に対して割合を掛けたものが、量の見込みというようなイメージとなります。子どもの数につきましては、少子化と言われている中、当市におきましても、減少傾向にあります。平成26年4月1日時点では、5,583人だった未就学児、0歳から5歳の人口について、令和5年4月1日には、4,904人となり、この10年間で12%減少している状況がございます。こうした中、今後の各サービスの量の見込みについては、将来の人口推計も考慮してまいりますので、例えば、今回の調査で利用希望の割合が増えたとしても、今後の子どもの人口推計によっては、量の見込みは横ばい、あるいは減少することも考えられます。人口推計につきましては、今後の子ども・子育て会議の中で触れてまいります。本日はそういった先の流れも視野に入れまして、アンケート調査の結果について、ご確認、またご意見をいただけたらと考えております。それでは内容につきまして、コンサルティングより、ご説明をさせていただきます。

・会長

資料が非常に分厚く、これをゼロベースからするとかなり時間がかかるので、今申し上げた通り、資料2を見ながら、ポイントを今回まとめていただきました、コンサルティングの方にお話をいただくという流れで、進めさせていただきたいと思っております。本来、事務局の席でご発言いただく予定だったんですけども、顔が見えた方がよかろうということで、特別席をご用意させていただきましたので、そちらをご利用いただき、ご説明をお願いいたします。

・コンサルティング

ご紹介にあずかりました、〇〇と申します。今日はこの場で説明させていただきますので、よろしく願いいたします。それでは説明を始めさせていただきます。資料1「東久留米市子ども・子育て支援ニーズ調査」報告書（案）は、昨年11月から12月にかけて実施した、アンケート調査の結果をまとめたものになります。こちらにつきましては、委員の皆様へ事前送付させていただいておりますが、本日お手元にある資料は、その時点の資料より、作成中と表示されていたグラフなど、新たに更新を加えておりますので、内容的には少し充実したものとなっております。

それでは内容の説明に入ります。この調査自体は、第一期の平成25年度、第二期の平成30年度に続いての、第三期、3回目の調査になります。ニーズ量を推計するために、国から全国一律で示された調査項目を引き継いで実施しておりますので、基本的には前回、第二期の平成30年度調査と同様の設問で構成しつつ、一部の設問で修正や追加を行って、実施しているものになります。調査方法としては、前回との違いにはなりますが、今回はインターネット回答もできるようにして行いました。回収率の方は、前回調査のときと概ね同じとい

う状況になっております。

資料1の方は、報告書の内容について設問ごとに記載をしております。先程会長の方からご説明があったように、かなり膨大な資料になりますので、本日は資料2を用いて、ご説明させていただきます。資料2は、未就学児童の保護者を対象とした調査の、重要な設問について抜粋し、前回、平成30年度との比較を掲載しております。この資料を中心に、ご説明させていただきます。

未就学を中心に行っているのは、国が示しているニーズ調査で、未就学児童保護者を必須の設問対象としていることもありますし、今回の調査でも、未就学児童保護者は対象者数が就学児童保護者と比べて2倍以上多くなっておりますので、そちらの方が数字として代表できるという部分、あと調査項目としても、未就学と就学では、ほぼ同じ内容になっておりますので、代表として説明できるかと考えております。ここで更に設問を抜粋しているわけですが、支援事業計画の主要な部分の一つである、幼稚園や保育園などの教育・保育ニーズや、学童保育などのニーズの傾向が分かる設問を中心に、抜粋しております。あと、皆さんのお手元の資料1の方に、資料2の抜粋箇所が分かるように付箋を貼らせていただいておりますので、参考にしていただければと思います。

前置きが長くなりましたが、資料2の説明内容に戻ります。前回と今回の数値を比較した形で、平成30年度、令和5年度と数字の方は載せております。未就学児童保護者で言いますと、前回も今回もおおむね1,000件程度の回収数を得ることができております。この1,000件程度の回収数というのは、統計的には十分なサンプル数となっております。こうした、実際の対象者から一部の方にお送りして、さらに一部の方が返して下さる、という形の調査を、標本調査といいます。この調査においては、出てきた数字を、多少幅を持って見る必要があります。それを標本誤差というのですが、1,000件程度の数が集まれば、その誤差の幅も1~3%くらいの小さな幅になるので、実際3~5%くらいの差があるものは「差がある」と言い切れる、統計的な計算ができます。「小学校低学年のうちの放課後の過ごし方の希望」のように、回答した方が少ない場合、この設問では回答した方が1,000件ではなく200件になるのですが、そういったところでは、幅の差というのも、10%、10ポイントぐらいの幅に広がっていくのを、大まかにご理解いただければと思います。先ほど説明にもありましたように、小学生の保護者の方は、サンプル数も少なくなっていますので、こういった幅も少し大きく見る必要があるということになります。以上、少し専門的な説明になりましたが、内容の説明に入ります。

ではまず1ページ目、母親の就業状況についてです。平成30年度と比較しますと、「フルタイムで就労している」という方が、10ポイント程度増えております。「フルタイム（休業中）」や「パート・アルバイト」の方は、やや増えているといったところで、「現在は就労していない」は、約14ポイント減少しております。このことから、未就学児を育てている母親が、フルタイムで働くことができるようになってきている状況というのが伺えます。

次に、平日の定期的な教育・保育事業の利用状況です。最も多いのが「認可保育所」で、次が「幼稚園」と、この2つが特に多いという状況は、平成30年度と令和5年度で変わらないのですが、「幼稚園」は約12ポイント減少し、「認可保育所」は約10ポイント増えております。上の設問の結果とあわせてみますと、幼稚園に通わせている家庭が少なくなり、フルタイムで働きながら、お子さんを認可保育所に預けている母親の割合が、多くなってい

ることが伺えます。

2 ページ目に進みまして、平日の定期的な教育・保育事業の利用希望です。先ほどと同じ選択肢ですが、先ほどは利用状況で、こちらは利用希望なので、ニーズの設問になります。先ほどの利用状況と同じ項目で聞いておりまして、こちらはニーズ量を推計する際の重要な設問になっております。こちらでは「幼稚園」が 15 ポイント減少、「幼稚園の預かり保育」も約 8 ポイント減少しています。「認可保育所」の方は 10 ポイント近く増加しているという結果が出ております。

3 ページ目に進みまして、小学校低学年のうちの放課後の過ごし方の希望です。こちらの方は、平成 30 年度と比較して、「習い事」が約 18 ポイント減少して、「学童保育」が約 15 ポイント増加しております。現在、認可保育所に預けている方が増加しているというのが、先ほどの 1 ページ目の結果で出ておりますので、そういった方々が学童保育のニーズも高めていることに繋がっているかな、と読み取ることができます。

その下の、小学校高学年になってからの放課後の過ごし方の希望では、「自宅」が約 9 ポイント増加して、「習い事」が約 8 ポイント減少しているという結果が平成 30 年度との比較で出ております。この辺り、高学年の方は前回との比較で大きく差が出ているというところまでは確認できませんが、低学年と高学年の放課後の過ごし方を比べてみますと、低学年のうちは「学童保育」のニーズが高く、高学年になると「自宅」や「習い事」にニーズが変化しているということが伺えます。

4 ページ目に進みます。上のグラフの方が、母親の育児休業の取得状況です。「取得した（取得中である）」という回答が、約 19 ポイント増加しております。母親の就業状況という最初の回答と合わせてみますと、フルタイムで就労している方をはじめとして、就労している母親が増えた幅もありますが、それよりも、育児休業を取得した方の増え幅の方が、非常に多いというところから、フルタイムで働いている方が増えているのは勿論ですが、育児休業が取りやすくなっている、という状況も推測できると考えられます。

その下が、父親の育児休業の取得状況です。こちらの方は、「取得した（取得中である）」が約 12 ポイント増えている状況になります。父親の就業状況の方は、最初に母親の就業状況を載せていたように、グラフは載せていないんですけども、前回 95.6%、今回 91.6%ということで、父親の就業状況は、ほぼ働いているという状況で変わっておりませんので、純粹に前回と比べて、育児休業の取得状況が増えている、まだまだ母親よりは少ないんですけども、父親の方でも育児休業が幾分取りやすくなっている、という状況が推測できます。説明は以上になります。

#### ・会長

ありがとうございました。私の方からも、補足の説明をさせていただきます。冒頭説明がありましたように、25 年、30 年に続いて、3 回目の調査になります。これは、設問はあまり変えないで、国から示されたものに準拠してやるのですが、それは何のためかというところ、経年変化を確認するためですね。年ごとに設問を変えてしまうと、変化がよく分からなくなってしまいうところ、そういう見方をしていますよ、ということが 1 点目です。

それから、今回に関しましては、委員の皆様のご意見を頂戴して、インターネットでの回答というのもの、積極的に取り組んでいるということが 2 点目。

3点目は、私も大学の教員ですので、こういった調査に妥当性があるかというのは、非常に重要なポイントになるんですけども、こちらの妥当性につきましても、何ら問題ないということも私も確認できましたので、今回の調査は非常に説得力がある、一定の説得力は持ち合わせている、ということが言えるかと思います。

もちろん、平成30年度と今回の調査におきましては、大きな流れとして、コロナ禍の中で、働き方など、いろいろあるのかな、ということが予測されますが、今、コンサルティングの方からご説明・ご報告いただいた件につきまして、ご質問でも結構ですし、皆様のそれぞれのお立場から、こういうことが言えるんじゃないか、こういうことはどうなっているのか、というようなご意見なども、頂戴できればと思います。

いかがでしょうか。

#### ・委員

ご説明ありがとうございました。2点お伺いしたいんですけども、1つ目は、母親の就業状況について、働いている母親が増えているんだろうとは思いますが、もともとの考え方は、保育所等の受け入れ体制が、どういう状況か、ちゃんと整えられているか、というところだと思うんですが、こういう調査は、目的が違うとは思いますが、働いていない人にも、どういうことに困っているのか、といったことを聞くのは、やっぱり難しいのでしょうか。国の方針なので難しいかなと思いますが、その辺りお伺いしたいです。

2点目は、幼稚園や保育所の利用状況、並びに利用希望というのを見させていただいたのですが、色んな変化があって、これは定量的に計れるものの調査だとは思いますが、やはり生の声として、理由や、なぜそちらにしたいのか、といったところのヒアリングを、今後検討していくことは可能なんでしょうか。

#### ・会長

事務局の方、お願いします。

#### ・事務局

ご質問の1点目でございますけれども、今回の調査対象は、就学前の児童調査については、市内に在住する0歳から就学前の子どもを持つ保護者となっております、その中にはフルタイムで働いている方や、現在は就労していない方も対象として、調査をさせていただいております。

2点目の、ヒアリング等というところでございますけれども、今回のアンケート調査について、ご紹介できた項目は少ないんですけども、多岐にわたる項目がございますので、そういったところから、基本的にはニーズ等を拾い上げていきます。国の方でも、事業計画の策定の見込み量を作る算出方法等について、今後通知等も出てくる部分もございますので、そういったものをベースに、見込み量の方は設定していくことになります。

補足でございますが、自由意見の記入欄もございまして、そういったところで、項目にないようなところについては、ご意見を伺えるような調査にはなっております。以上です。

・会長

ありがとうございます。毎回、調査が終わった後に言われることは、数字の裏にある実情は、というところですか。どの代の時でも言われることでもありますし、背景にある実情は、非常に大事なポイントだと思っております。そのところは、積極的に、自由記述も含めて、事務局の方で検討していただいたり、整理していただければと思います。〇〇委員よろしいでしょうか。他にはいかがでしょうか。お願いします。

・委員

ご説明どうもありがとうございます。素朴な疑問なんですけれども、先ほど会長の方から、このニーズ調査は3回目ということでした。今回、令和5年と平成30年2つのものが比較されているんですけれども、実際には平成25年にもやられたわけですよね。全部載っけてくださいというわけではないんですけれども、平成25年も加味した場合、平成25年からどこの部分が突出して、何が変わったかというのを、あくまで情報の共有として、教えていただければと思います。

・会長

事務局どうでしょうか。

・事務局

今回の資料では、前回30年度との比較を載せさせていただいております。それもポイントを絞ってということですので、例えばこの項目について、平成25年度からの経緯や変化を確認したい、というお話があれば、それについては後日、メール等で資料は送らせていただきたいと考えております。

・委員

ありがとうございます。学童保育がどう変わっているのかを知りたいです。

・会長

後で事務局の方に、気になる項目等お話いただければと思います。委員の方からお話いただいて、それを委員のところだけに返すのは勿体ないので、こういう質問が来ている、ということを、次回の会議で、事務局から資料を用意していただきたいと思います。ある委員からいただいたものに関しては、共有を皆にしてください、ということです。次回の会議でお話いただければというところですか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

他にはいかがですか。単純な疑問でもいいですし、これはどういうふうに数字を見ればいいんだろう、というところでもいいし。事務局側の方の説明もありますし、コンサルティングの方の取りまとめのロジックというところでも結構です。いかがでしょうか。

・委員

保育園の一時保育を私も利用してるんですが、予約を取りたくても取れないことが結構あるので、そういう数字を知れたら嬉しいです。どれくらい需要があって、実際、どれくらい

の人たちが使えているのか、そういう情報はないですか。

・会長

事務局そのあたりいかがでしょうか。

・事務局

調査の項目としては、52 ページになります。こちらの方で、利用状況や日数について、回答いただいております。

・委員

どれくらいの日数というよりは、どれくらい希望者がいて、実際使えていない人がどれくらいいるのか、というのを知りたいのですが。

・事務局

今回の調査項目には出てこない部分になるので、自由意見のところでもそういった意見があれば、ある程度確認できるとは考えております。

・会長

その数字は、非常に興味がある数字です。それを知ることによって、委員の方としては、実際にどうなの、ということを知りたいという理解でよろしいですか。

・委員

その数字が出た上で、今後、一時保育受け入れの人数を増やすなどの対策を、していただけたらと思います。実際、私が使わせていただいている保育園では、先生がお休みをしてしまうと、預かれる人数が減ってしまって、受け入れられる人数が減ってるんですって言われたことが何回かあって、使いたい時期に使えない、ということが結構あって、すごく困っているんです。そういうのを何とかしていただきたいです。今後、その辺も考えていただけたら嬉しいなと思います。

・会長

ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思いますので、事務局の方でも検討していただきたいと思います。あくまでも、先ほど冒頭申し上げたように、これに関しましては、準拠した形の項目立てで行っておりますので、この中にはちょっと入っていない、というところは、ご承知いただければと思います。事務局よろしいですか。

・事務局

個々の事業所の状況にもよると思っております。この調査はやはり市全体のところを見ていくものでして、実際には、各保育施設で予約の取れ具合というのは、違ってくると思っております。そういったことについては、私立園長会という、各認可保育所、小規模家庭的保育所との連絡会の場等を持っておりますので、そういったところで各施設の状況等、確認してまいりたいと思います。



・会長

先ほどのご意見もそうですけれど、多分、自由記述が非常に重要になってくるのかな、と  
思っております。なので今後どのようにできるか、検討の余地はあるんですけども、そう  
いう、数値に表れづらい声を、うまくアンケートの中に自由記述できるように、一括で何か  
書いてくださいだと、あまり書かない方がいらっしゃるかもしれませんが、うまい具合に  
自由記述をできるようにする検討を、事務局とさせていただければと思います。この場で  
すぐの回答はないと思いますけれども、そういうところを積極的に考えていきたいと思  
います。他にはいかがでしょうか。

・委員

資料2の3ページ上、「小学校低学年のうちの放課後の過ごし方の希望」というところで、  
学童保育が平成30年と比べると非常に伸びていて、やはり学童保育のニーズがあるんだな、  
と思ったのですが、人数を見ると188人となっていて、少ないなと思ったんです。よく  
よく見てみると、資料1の105ページ問13に、同じように「小学校低学年のうちの放課後  
の過ごし方の希望」、あれ、同じ設問があるぞと思ったんです。ところがこちらは、人数は  
639人の回答なんです。何が違うのかと思ったら、資料2の方は、「就学前の方」のご回答  
で、105ページ問13の方は、「小学校2年生のお子さんを持つ保護者の方」の回答でした。  
そうするとですね、就学する前は、学童保育に通わせたいと思っていたんだけど、小学校  
2年生になってみると、引き続き学童保育に通わせたいと思ってる方は48.4%で、実は7割  
近い方が最初はいたんだけど、小学校3年生のときには、人数が減少する、ということが見  
てとれると思ったんです。量の見込みというお話だったので、学童保育の人数を見込むに当  
たって、1、2年生までは利用するけれど、3年生になったら、違うところを利用しよう  
と思っている方が増えているのかなと。じゃあ代わりにどこに行くんだろう、と思って見て  
みると、「習い事」です。未就学のときには33%の方が習い事に通わせようと思っ  
ているんですが、小学校3年生を迎えるにあたり、52.4%と2割近く増えている。とい  
うことは、実際に、もしかすると東久留米の実情としても、放課後はもう勉強させよう、  
あるいは習い事に通わせよう、と思っていらっしゃる方が、増えてきているんじゃないか  
なと。私も肌感覚ではございますけども数年前までは、小学校4年生になったら学童が外  
れるから、塾に通わせるんだ、といったご意見を、よく耳にしていました。もしかすると、  
今はそういうのが早まっているということにも注視しながら、人数を見定めていく必要  
があるのかな、と思いましたので、発言をさせていただきました。

・会長

貴重なご意見ありがとうございます。学童の人数に関しましては、これまでも比較的注  
視しながら積み上げをされておりますし、今、委員がお話されたことは、多分その通り  
だと思います。学年が上がるに従って、どうしても習い事の方にシフトしていくとい  
う流れになっているのかな、と思います。こういった、学年において変わってくる  
ところを、再度量の見込み等を含めて注視しながら、いろいろと検討していただ  
ければと思います。

・委員

資料1の51ページと98ページの同じ設問なんですけど、子どもが風邪をひいた時とかに仕事を休めるかどうかという点で、休暇の取得希望は両方とも2割弱になっているのですが、その理由を聞いているのが、この設問なんですけど両方とも「その他」がすごく多くて、実態がちょっと分かりにくくなっているのかな、と思います。この、「その他」の内訳がここでは分からないんですけども、設問の仕方として、この休暇の取得希望、「できれば仕事を休んで看護をしたい」の反対が、「休んで看護することは非常に難しい」と、ちょっと極端な聞き方とっていて、ここに当てはまらない、できれば仕事を休んで看護したいんじゃない人が、別の理由で結構いるのではないかと思います。もしかしたら「その他」が多すぎるのは、設問に何か問題があるのではないかと思いますので。もし来期以降、改善の余地があるのであれば、検討しても良いのかな、と思いました。

・会長

ありがとうございます。冒頭申し上げた通り、この設問そのものは、国に準拠しているところですので、恐らくこの設問に関しても、聞かれている内容はその通りになっていて、今委員が質問されたように確かにこの半数「その他」が気になるところでございますが、これ一つ、私の方からのご提案なんですけれども、経年変化を見ていく、程度変化を見ていく中で、この取り方は多分崩せないと思うんですね。そこで、先ほどから言っている自由記述の中で、この「その他」を選ばれた方は、ご意見いただけませんか、みたいな工夫をすれば、この「その他」の中のことも、ちょっとは明らかになるかと思います。

・コンサルティング

会長がおっしゃられた通りでして、調査票では、そのこの部分の「その他」を回答した方は、具体的にその内容を書き添えていただける欄が設けてありますので、この報告書を完成させる際には、「その他」の下に、そこに書かれた具体的な回答と、どういった回答が多かったか、というのを書くようにさせていただきたいと思っておりますので、そこでご確認いただければと思います。

・委員

ありがとうございます。子どもが病気の時の対処はとても大事なことでございましたので、伺わせていただきました。

・会長

再度申し上げます通り、自由記述のうまい使い方を検討する余地はあろうかと思っておりますので、改めて、公表の仕方も含めてですけれども、よろしく願いいたします。それでは、他にいかがでしょうか。よろしいですか。量が多いものですから、先ほど申し上げた通り、この後でもけっこうでございますので、もしご質問等があれば、事務局の方に投げただけであればと思います。その委員からのご質問にフィードバックするときは、こちらの会議の中で、皆さんと共有させていただきたいと思っておりますので、事務局よろしく願いいたします。

それでは、様々なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。つきましては、今後事務局の方で今回の資料をもとに作業を進めていただき、整い次第、公表していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

次に、次第3「その他」として、報告等を事務局からお願ひします。

### 3 その他

#### ・事務局

それでは報告が1点ございます。資料の方はございません。東久留米市保育サービスの施設整備・運営及び提供体制に関する実施計画について、でございます。当計画につきましては、令和6年1月に改訂を行いました。改訂後の計画については、近日中にホームページ等で公表の予定となっております、委員の皆様にも、その際にはメールでご連絡をいたします。改訂後の実施計画につきましては、次回3月に予定されております、子ども・子育て会議にて、ご説明・ご報告をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

#### ・会長

ありがとうございます。それでは次に、次回の日程の確認をしたいと思います。事務局よろしくお願ひいたします。

#### ・事務局

次回の日程について、でございます。次回の開催は、3月下旬に予定できればと考えております。内容でございますけれども、ニーズ調査報告書に関してや、次年度の開催スケジュールなどについて、ご説明をさせていただき予定となっております。詳細については、追ってまたご連絡をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

### 4 閉会

#### ・会長

ありがとうございます。週末は、また寒くなるということで、寒暖差が非常に激しく、インフルエンザ、コロナもまだ流行っております。どうぞ皆様におかれましては、お身体ご自愛いただければと思います。それでは、本日予定しておりました内容は全て終了いたしました。以上をもちまして、閉会とさせていただきます。委員の皆様、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。